

挑

戦

発行日 平成9年 7月 2日

第7号

発行者 吉村研究室新聞委員会



平成9年2月に屋上で撮影。卒論発表後であることと寒さにより厳しい表情の人もあります。

第7号発刊にあたっての挨拶

研究室主任 吉村 昇

1年に1回ですが卒業生及び修了生の皆様に送付している恒例の研究室新聞（挑戦）の発刊時期となりました。早いもので今年で7号となります。今年は、これも恒例の第12回センサ工学研究会が7月14日（月）～16日（水）（於サンルーラル大潟）と例年より早い開催となるため、挑戦の発刊も少し早目になりました。

昭和58年4月教授に就任してから、来年の3月で満15周年となります。来年は折を見て研究室開設15周年記念の顔合わせをしたいものです。その節は宜しくお願いします。

更に、学部長に再選され、この4月より2年間（平成11年3月まで）学部長を勤めております。現在鉱山学部の改組を手掛けており、多忙を極めております。平成6年4月に設置された大学院博士後期課程の制度により、本研究室からも2人の博士（工学）がこの3月に初めて誕生致しました。範宗懐君（現在㈱フジクラ勤務）と徐健飛君（現在付属研究施設非常勤研究員）です。いずれも中国からの留学生であり、見事な研究成果を挙げてくれました。

また、3月27日より鈴木助教授は文部省在外研究員としてカナダのオタワの国立研究所（National Research Council of Canada）に8ヶ月間滞在中であり、水トリー関連の研究を行っています。カナダあるいは北米へ出張の皆様は是非立ち寄ってみてください。

今年の就職戦線は、ここ2～3年間と比較し、かなり厳しさは緩和しているようです。大学院前期課程は全員内定、4年生は就職希望者8人中5人が内定（6月27日現在）しています。昨年と比べて学生のレベル上昇も一因かもしれませんが、かなり緩和しているものと判断しています。なお、4年生13人中5人が大学院への進学を希望しています。全員合格するように頑張ってください。

研究室の研究テーマには、それ程大きな変化はありませんが、それぞれのテーマについて論文の掲載が順調であり、成果も挙がっている様子で大変嬉しく思っています。なお一層深い研究をし、各々の分野で日本をリードするレベルまで進むことを期待しています。

水戸部助手、佐藤（忠）技官も、秘書の船木さんも元気で頑張っています。来秋の折には是非研究室に足を運んで下さい。皆さんの出た研究室であります、遠慮はいりませんので。皆様の健闘を祈っております。

最後に、新聞の発刊にあたり、新聞委員会（委員長：大学院前期2年 秋山勉君）のメンバーには大変なご苦勞をかけ、感謝申し上げます。

吉村先生 学部長再選

2年前に歴代で最も若い学部長として就任なさった吉村先生。今年度、鉾山学部長に再選されました。先生が活躍されていると思うと、研究室の学生としてうれしい限りです。さらなるご活躍を期待しております。しかし、過去2年間のように、学部の改組などの学部長としての仕事が忙しく、研究室にはあまり立ち寄っては頂けなくなるのでしょうか。これは、寂しい気がします。できれば時々研究室での簡単なディスカッションや、定期的な行事で学生とゆっくり話し合う時間を作って頂けることを楽しみにしております。また、輪講や中間発表では、今までのような鋭い指摘、適切なアドバイスを我々学生にして頂ければ幸いです。お忙しいでしょうが、お体に気をつけて頑張って頂きたいと研究室一同願っております。



穴澤先生 吉村研へ

今年度から穴澤先生、さらに元機器の大学院生3人、4年生4人が吉村研究室の一員となりました。ますます大所帯になってしまったわけですが、しかし、部屋の移動などはなく所属が移っただけで、輪講や中間発表はそれぞれに行うとのこと。ただし、焼き肉パーティー・飲み会など定期的な行事には参加されています。穴澤先生の飲みっぷりには、ただただ驚くばかり、なんと言ってもキャパ(Capacity)が私たちとは違う！鈴木先生との夢のタッグが待ち遠しい！！競宴近し！！

(編集長 談)

せっかく吉村研究室の仲間が増えたというのに交流があるのは飲み会がほとんど。これからだと思いますが同じ研究室になったのだからよりフレンドリーにいきたいです。

穴澤先生は飲み会をやる前から「すごい飲める」をいう噂を聞いておりましたが、まだまだ30%ほどの力しか出せず、ご不満な様子。今後の課題は穴澤先生に満足いくまで飲んでもらうことです。なお11月には鈴木先生も帰ってきますので、その後の飲み会では幹事と会計に一苦勞ありそうです。

(副編集長 談)



酒は楽しく飲みましょう！

鈴木助教授 カナダへ!

今年の3月末から、鈴木雅史助教授がカナダへ出張しておられます。鈴木先生のカナダでの仕事や生活については、研究室の私たちでさえ、なかなか分からないのが現状です。そこで、今回電子メールにてカナダでのことを伺い、3ページにわたってお送りします。

文部省の在外研究員としてオタワに来てから、この原稿を書いている段階で3ヶ月経ちました。滞在は3月末から11月末までの8ヶ月間です。この新聞が皆さんの手元に渡る頃には、約半分の4ヶ月が過ぎていることでしょうか。なぜ、このようなことから書き始めたかと言いますと、カナダ行きが決まってから、あるいはカナダに来てから最も多かった質問が、「何しに行くの?」でした。中には、いまだに有給休暇を取ってカナダに遊びに行ったきり、そこに住み着いてしまった、と思っている人もいるようです。公務員の綱紀肅正がさげられる中、このような状態ではまずいと思い、まず皆さんには研究、及びカナダの多くの研究者との交流が目的であることをお伝えしたいと思います。また、学部長職でお忙しい中、私のカナダ行きを快く了解してくださいました吉村先生、また、不在中大変ご迷惑をおかけしているであろう、水戸部先生、佐藤(忠)さん、他研究室の皆様はこの場を借りてお礼と、お詫びを申し上げます。

カナダとは

それでは、簡単にカナダの概略ご紹介をしたいと思います。ご存じの方も多いと思いますが、カナダの総面積は約1000万km²、日本の27倍に相当します。しかし、実際には北方は北極海に面し、北極点からの距離は800km程度で、およそ人が満足に住めるような環境ではありません。もちろんいくつかの小さな町はありますが、その多くは道路、鉄道もなく空路でのみ訪れることが出来ると言った特殊な町です。このため、人口の多くはアメリカとの国境沿いに集中しており、その数およそ2700万人とされています。カナダには10の州と、2つの準州があり、私のいるオタワはその中でも最大の人口(ほぼカナダの人口の半分)を誇る、オンタリオ州にあり、カナダの首都でもあります。日本との時差は夏時間を採用している現在では-13時間、日本からの直行便はなく、トロント経由で約15時間程度の旅となります。オタワを中心にした、カナダで気づいた点を以下にまとめてみました。

気候について

オタワ出発前は、多くの人から「カナダは寒いぞ」と脅かされ、実際インターネットを使って調べたオタワの気温は連日-10℃以下、大変なところに旅立つことになったと思っておりました。しかし、私が到着した日は晴れで、秋田より暖かい程の天気でした。日頃の行いが良いと天も味方するものだ和我ながら感心したものでした。しかし、道路脇にはまだ雪が残り、次の日からは噂通りの寒さとなりました。雪が消えきったのは4月の後半でなかったかと記憶しております。5月中旬までは、私の到着した日が今年の最高気温となっていました。ようやく気温が20℃を越えるようになったのは5月の20日過ぎではなかったでしょうか。しかし、その後気温は瞬く間に上昇し、6月はじめには最高気温が33℃を越える日が1週間くらい続き「オタワ=寒い」という関係式は一変に崩れた感じです。オタワでは6月から9月にかけて、何度かこのような熱波に見まわれるようです。



街の風景に溶け込んで建てられているりっぱな塔なのでしょう。ぜひ、行ってみたいものです。



カナダは元々移民の国で、多民族国家ですから私が町をぶらついていても外国人には見えないようです。道を聞かれたり、バスの乗り場を聞かれたりはしょっちゅうです。このため、日本人のように外国人に対する抵抗はなく、大変住みやすい環境です。東南アジア系の移民も多く、町を歩いていると日本と錯覚しそうなこともあります。また、こちらの人是一般におおらかで優しい人が多いと感じました。オタワは英語圏のオンタリオ州に属していますが、川を渡った隣町、“ハル”はケック州、フランス語が公用語です。このため、オタワでもフランス語を話す人は多く、掲示板その他もほとんどが英語、フランス語の併記になっています。オタワは私の見る限りイギリス色の強い町に感じられます。比較的まじめで、これは休日には酒類の販売がほとんど行われず、町中での飲酒は禁止、夜は多くの店が10時頃には閉まるなどアメリカ大陸に対するイメージとは少し異なります。それでも、町中では、エレベーターが開くと抱き合っている男女、なぜか歩きながらキスしてるやつなどが見られ、“なんだ、こいつらは!”と憤りを感じます。彼らは、どうもフランス系の顔つきに見えます。おっと、これは偏見かもしれない。このように感じるのにはテレビの影響も大きいでしょう。オタワでは、英語とフランス語のテレビ番組がほぼ半数ずつですが、英語放送はまじめで(子供の教育上の配慮か)、女性のバストにも“モザイク”がかかります。フランス語の放送はそのようなことはないようです。まじめな私は、フランス語が聞けなくて良かった、と英語番組を見えています。

日本人が外国に来ると必ず報告するのが物価の違いでしょう。一言で言えば“安い”。分かり易いものを例にとると、ビールが350ml缶で約120円、コーラが2ℓで100円くらいでしょうか。牛肉は300円も出すととても1回では食べきれないほど(400g)手に入ります。その他、電気代は月1000円ちょっと。私の住んでいるアパートにはガスはなく、電気調理器で料理しています。また、こちらでは照明器具に蛍光灯は少なく、ほとんどが白熱電球、私のアパートでは100Wクラスの電球が10個以上ついていることを考えると格安でしょう。ガソリンは50円/ℓ以下。床屋は近くのショッピングセンターで済ませると900円です。いかに日本の物価が高いかが実感できます。ただ、こちらでは食料品以外には税金が15%と日本の3倍もかかります。従って、衣料品その他は日本とほぼ同じといった感じです。また、レストランなどで食事をする時、料金の他に15%の税金、同じく15%程度のチップが必要となるので、支払いの時に何か損した気分になります。オタワには日本食のレストランも3軒ほどあり、寿司、カツ丼、天ぷらなどが食べられます。しかし、貴重品なのかカツ丼が1500円もするのには驚かされます。




車事情

カナダの車事情については、研究室のホームページ(<http://kc6.ee.akita-u.ac.jp>)にも載っていますので、アクセス可能な方はこちらを参考にさせていただきたいのですが、こちらで車に乗っていてまず嬉しいのがガソリンが安いと言うことです。50円/ℓ位でしょうか。また、高速道路も一部の例外をのぞいて無料です。税金のたぐいも購入時に若干の税金がかかる他は、支払う必要がありません。前にも書いたように、この広大な国土に対し、住んでいる人は少ない、つまり、一人が受け持つ道路長は日本よりはるかに長いはずですが、高速は無料、税金は安い(ガソリン代を含む)、いったい日本で我々が払う税金はどこへ消えているのでしょうか。

また、こちらでは日本車の人気、信頼性は非常に高く、中古車の場合日本車はアメリカ車の2倍程度の値段がします。それだけ故障が少ないそうです。こちらには車検制度はなく、車は自分で責任を持って管理します。海外ではこれだけ日本車の信頼性が高いのに、日本国内では異常とも思えるほど厳しい車検制度、多くの疑問を感じます。決してカナダが日本に比べ事故が多いと言ったことはないようです。



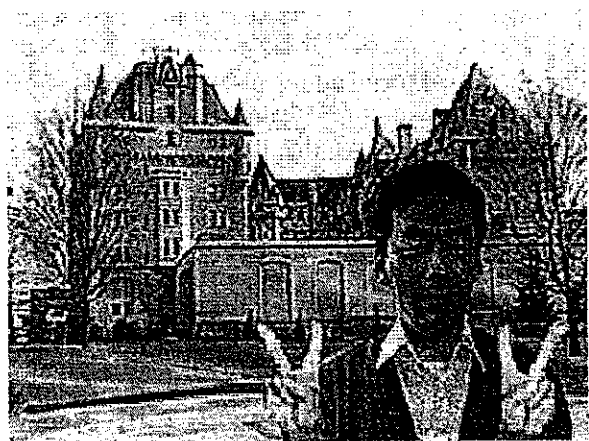
おや？服装が1枚目と一緒にですねえ。天気がい
いので暑いんじゃないですか？



インターネット

インターネットとは便利なものが出来たもので、オタワにいながらほぼリアルタイム日本の様子を知ることが出来ます。ホームページを覗くと、全国紙はもちろんスポーツ新聞、東北地方のニュースを扱った河北新聞(<http://www.kahoku.co.jp>)、秋田県南部のニュースが中心の秋田県南日々新聞(<http://www.hana.or.jp/hana/nitiniti>)まで見ることが出来ます。日本ではなかなかこういったものに目を通す機会がありませんでしたが、これらを見ていると色々な発見があります。たとえば、秋田県南日々新聞。ここの読者の欄には、バルセロナへ行っておられる玉本先生の投稿がありました。また、河北新聞の就職案内をたどると、(株)松下通信仙台研究所へ就職した加賀谷文明君(平成8年3月院卒)が先輩から一言として会社の説明を(<http://www.kahoku.co.jp/emp/index50.html>)、JR北海道のページ(<http://www.hjsd.co.jp/jrhokkaido/index.html>)には採用情報の欄に、敷村朝生君(平成7年3月院卒)が顔写真入りで、その他、ソフト関係の仕事をしているはずの、鶴田康正君(平成5年3月卒)は自分のホームページ(<http://plaza12.mbn.or.jp/~saisyo/puro.html>)を開設しておりました。皆元気にやっているようで頼もしい限りです。

これまで、オタワ大学、カールトン大学、クイーンズ大学を訪問しました。と言ってもオタワ大学、クイーンズ大学はただ遊びに行っただけですが。カールトン大学では土木工学科の研究室を見学してきました。まるで関係ないように思えますが、各種計測技術、制御技術などは大変参考になるところがありました。海外の大学を見て思うのは、その環境のすばらしさです。緑が多く、広大なキャンパス、これはカナダに限らず、これまで訪れた韓国、中国もそうであり、羨ましいばかりです。我々もいつの日かこのようなすばらしいキャンパスに学生を迎えたいとの気持ちをいっそう強くしました。また、こちらの大学は日本の大学のように長大なフェンスで仕切られていることはなく、町の中にごく普通に点在しています。当然キャンパスは一般の人もたくさん歩いており、一般道として車も走っています。“地域にとけ込んだ大学”との感じが強く受けられます。



アングルが全部同じですよ。まったく...って言う
ておいて、実は、こちらで風景に合成させて
もらいました。

鈴木先生からのお知らせ

電子メールが使える多くの方とは日々連絡を取り合っています。私の所は日本語のメールの読み書きが可能です。カナダに来る予定のある方、カナダに興味のある方は是非ご連絡ください(suzuki@gold.sao.nrc.ca)。

また、研究室のホームページ(<http://kc6.ee.akita-u.ac.jp>)にも是非お立ち寄りください。

ノーカットでお送りしました。鈴木先生の生活している周りのことが、少しは分かっていただけなのではないでしょうか？ここに触れられていないことは、11月に帰国したときに聞くことができるはずです。次号を楽しみに。(おそらく後輩達が頑張ってくれるでしょう)

研究紹介

今年度は、博士後期課程6人、博士前期課程5人、4年生13人います。博士前期課程の学生が少ないですが、みんな活気あふれる研究を行っています。

●複合絶縁材料中の電気トリー進展に及ぼす界面及び電界方向の影響(D3)

ケーブルの中間接続部におけるEXとEPR間の接触面は斜面である。電極と界面の角度により絶縁システムの耐トリーイング性が異なると考えられる。ここで、上記のような界面を人工的に作製し、トリー進展に及ぼす界面及び電界方向の影響について基礎的な研究を行う。

●絶縁材料中のモホロジー及びその空間電荷問題(D2)

電気絶縁材料中のモホロジー及びその空間電荷分布について調べ、空間電荷が絶縁材料の電気伝導と絶縁破壊への影響を考慮し、絶縁材料の絶縁破壊メカニズムを解明する。

●Researches on the optimum lighting by MC(D2)

The Monte Carlo(MC) method is a well known technique based on statistical sampling that has the desired characteristics. My research task is simulating the lighting effect in the printed circuit inspection by MC. It involves the usual stochastic sampling of lighting fields, the data processing and so on.

●屋外用高分子絶縁材料の表面劣化現象(D1)

高分子絶縁材料表面は紫外線、酸性雨、オゾンなどの外的劣化因子の下に長期に渡ってさらされ、材料の耐汚損特性(撥水性、耐トラッキング性)が低下する場合がある。本研究では、この耐汚損特性の低下メカニズムの解明を目的としている。

●新しい高分子材料の微細構造と耐トリーイング性に関する研究(D1)

近年、電力機器の発展のために、新しい高性能有機絶縁材料の開発は重要である。本研究では、新しい高分子材料を用いサンプルを作り、材料の微細構造とトリーイング劣化を研究する。

●The electrical conduction and breakdown of SiO₂ thin film by means of sol-gel method(D1)

The fabrication of SiO₂ thin film by means of sol-gel method is a hot point of modern chemistry and physics researches. As the thermal SiO₂ thin film has taken an important role in micro electronic devices, the electrical properties of the sol-gel SiO₂ film will be of considerable technological interest. My study is about the electrical conduction and breakdown of the film I think it will be very important for sol-gel SiO₂ film's industrial application.

●ヒトの知覚運動協応に関する工学的研究(M2)

高齢化が進むにつれ、痴呆問題の増加が予想される。リハビリによる症状の抑制などが報告されていることから、症状の初期段階での発見が重要となる。本研究では、知覚協応運動により「注意」を定量的に判断し、痴呆症状の発見を目的とする。

●屋内配電線における電気火災発生過程の解明(M2)

この研究目的は、近年大都市で数多く発生し問題になっている塩化ビニルコードからの出火について解明することです。その原因として、開閉サージ、誘導雷サージ電圧の低圧配電線への進入が考えられているので、この電圧印可による材料の劣化を証明することが主な目的です。

●液晶ディスプレイ(LCD)のバックライト照明シミュレーション(M2)

Master唯一のシミュレーション。最近進歩の著しいLCDで、自ら発光しない液晶の光源としてバックライトがよく使われている。このバックライトはLCDの消費電力の約70%を占める。そこで、このバックライトからの光をいかに効率よくするか、照明工学の面からMCS(モンテカルロシミュレーション)を用いて解析している。

●限流素子材料に関する基礎研究(M1)

電力回路で短絡事故などが発生すると、大きな短絡電流が流れる。短絡電流は遮断器によって遮断されるが、電力機器や電路に強い機械的・熱的ストレスを与えるため、短絡電流を限流することが望まれている。そこで、短絡電流を限流するような金属材料についての研究を行っている。

●ゾルーゲル法によるITO薄膜の作製とその特性(M1)

液晶ディスプレイの透明電極としてITO(Indium-Tin-Oxide)薄膜がよく用いられる。薄膜の作製法として気相法が一般的であるが、大面積へのコーティングが困難なことや大規模な設備を必要するといった問題がある。そこで、本研究ではゾルーゲル法を用いて低コストかつ高性能なITO薄膜の作製を目的とする。

留学生紹介

今回は中国・西安から張 守斌(チョウ シュビン)さん、北京から嚴 萍(ゲン ヘイ)さんが研究室に留学生としてやって来られました。平成8年10月頃から我々と一緒に生活していますが、1年も経たずに日常会話は何ら不自由がなくなりましたお2人です。私なんぞが外国で生活したら、何年経っても… 私事はさておき、張さんの自己紹介をどうぞ。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

When I was born in Xi'an, China, on March 2nd, 1970, my father had worked there as a teacher of Xi'an Jiaotong University for 5 years. The birth of their first child made my parent very happy. They named me 張 守斌, in which 守 was the seniority sign of our big family and 斌 was the high hope they placed on me- they wanted me to become a man of literary talent (文) and powerful force (武).

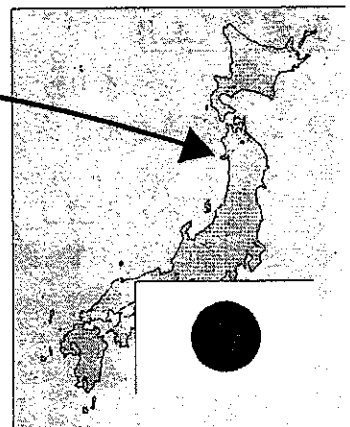
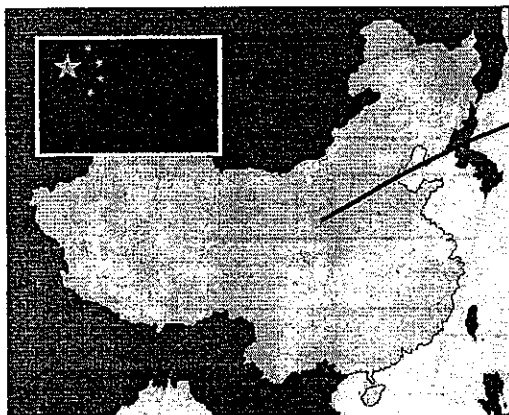
In my memory my childhood is a kind of topical city style, nurtured in the classical Chinese civilization of my historical hometown. In the summer of 1987, I became a student of Electrical Engineering Department of Xi'an Jiaotong University. Fortunately, my department is one of the most famous among those in China. I learned many things and met many famous professors there, not only Chinese but also foreigners, for example professor Takata(MIT, Japan). These experiences made me became interested in my major-electrical insulation materials and technology.

After graduated in 1991, I began to work in the university. From April 1993 to Jan. 1994, I was assigned to help for setting up an electronic ceramic company in Guangdong province which was technically supported by our department. The market investigation and trade negotiation cost most of the time and I became familiar with many famous Japanese makers like Murata & TDK. In Feb. 1994, I came back to my university to read for a master's degree. Then, as everyone knows, 4 months after I got my diploma in June 1996, I came to Japan for doctor degree pursue.

My master degree thesis was about some important technical processes of HV high capacity ceramic capacitors used for 500 kV breakers. The main consist of it was SrTiO₃ which show typical crystalline properties, yet the sol-gel-derived SiO₂ which I am studying now is infect amorphous. Although the change of subject made me a little busy in reading many new references, I am begin to like it, not only because it is in great demand, but also for it's difficult fabricating and testing technology. I think I will do my best.

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

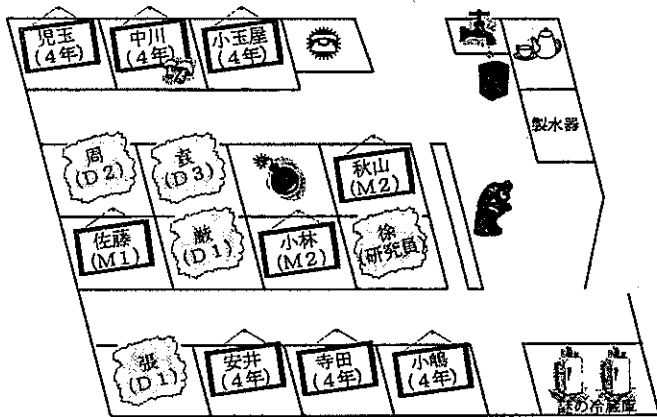
張さんは、明るく楽しいナイス・ガイです。これから飲み会などでの“暴れっぶり”(!?)が期待されます。なお、嚴さんは産休中のため自己紹介は掲載できません。ご了承下さい。



秋田から西安までは、飛行機で東京・北京を経由して約6時間だそうです。(待ち時間抜き)

研究室の各部屋の状況

毎年のように各部屋とも模様替えが行われていますが、今年度大きく様変わりした部屋は、なんといっても404号室(材料関係の部屋)です。ただ、だいぶきれいにはなったものの、我が研究室で一番怪しく、あぶない部屋であることには変わりありません。その他の部屋は昨年と比べ大きな変化はありませんが、学生の紹介も兼ねまして簡単に紹介します。



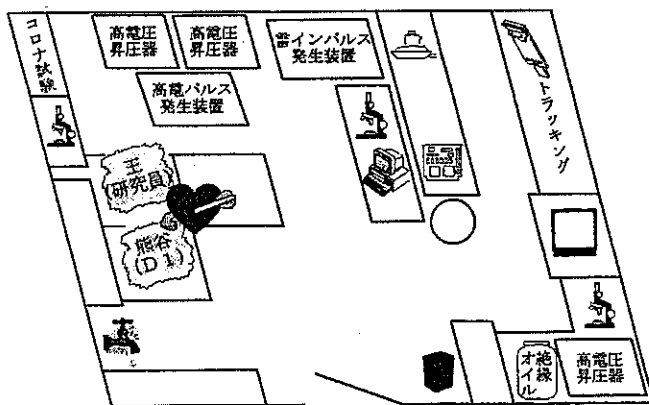
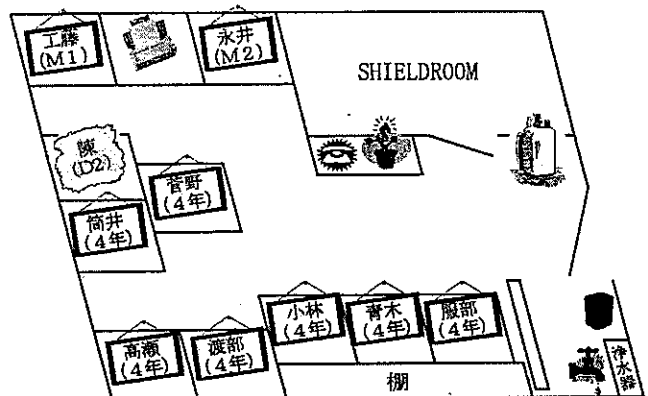
317号室(上)

主に材料・バイオ関係の人が集まっています。現在、徐さん、巖さんが留守がちであるため、ちょっと寂しさを感じます。今年の個人持ちパソコンはDOS/V>>98ですが、新たにMACが勢力を伸ばして来ています。これから暑い夏を迎えますが、OB寄贈の扇風機も加わり万全の体制で立ち向かいます。

320号室(下)

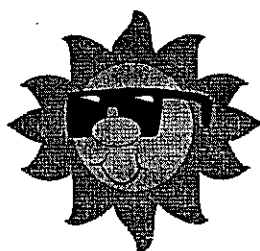
今年度も主にシミュレーション関係の人が集まっています。今年は鈴木先生がいないためちょっと寂しいです。さらに、物置と化していたSHIELDROOMの鉄の戸がとうとう壊れてしまい、完全にただの物置になってしまいました。

(吉村先生ごめんなさい・・・)



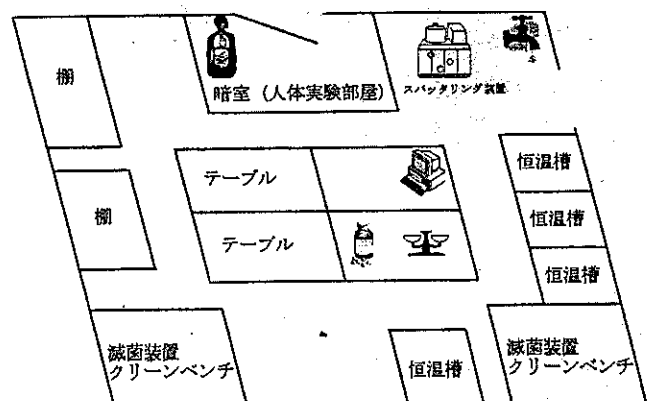
306号室(上)

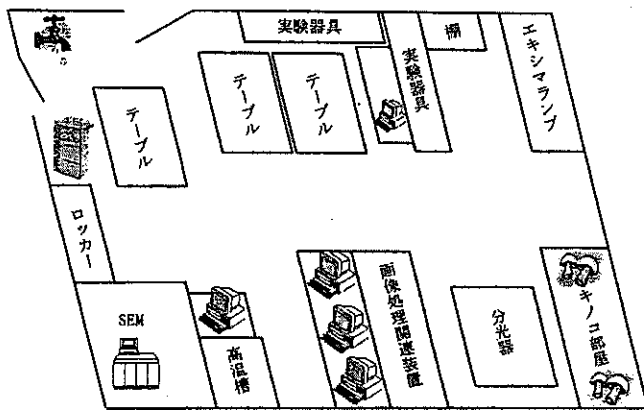
今年も2人つきりナァ! んんー熱いね!
熊谷さん、2人はどんな関係??



316号室(下)

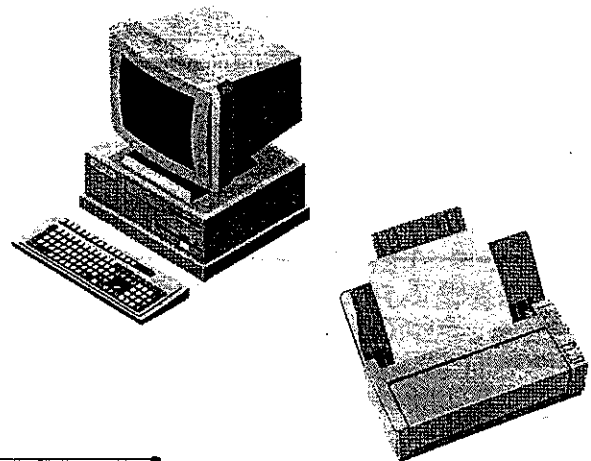
バイオ・生体関係の部屋です。恒温槽4台・乾熱滅菌器が2台あり、いつも稼働しているため暑いです。しかし、クーラーのおかげで夏でも快適! ここの暗室は絨毯が敷いてあるので、涼しい中昼寝を満喫できます(一部の人間に限定)。必要とされるもの(!?)がたくさん置いてあり、また暗室なるものが作られたので非常に狭いです。





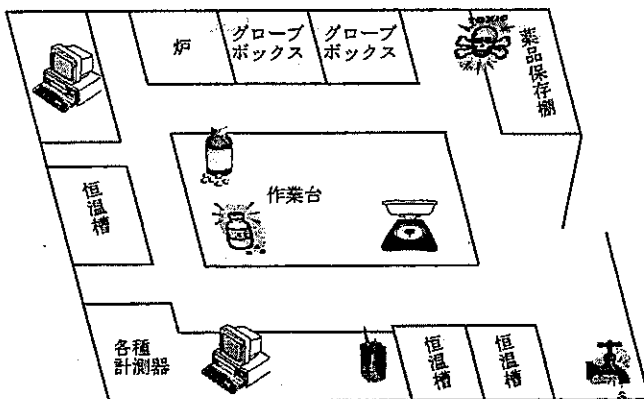
319号室 第一実験室(上)

今年は、パソコンの隣で恒温槽が動き、奥の方ではキノコの栽培、水の磁気処理、エキシマランプなど様々な実験が行われています。そのうちパソコンにキノコが生えるかも・・・。



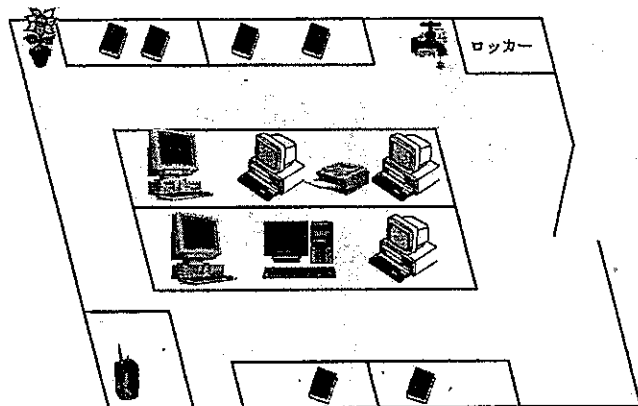
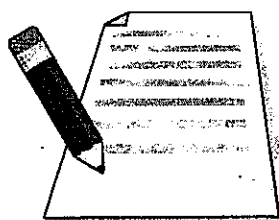
412号室(下)

昨年から設けられた“Sim Room”ですが、DOS/Vパソコンが壊れ、Win95マシーンがたった一台になってしまい寂しい限りです。だれか、“パソコン”寄贈してくれないかなー。



404号室(上)

ここは材料関係の部屋です。危険な薬品もあるため研究室の人でも気軽には入れません。今年は春に大掃除をしたため前年より明るくなり、今までの怪しくて汚い部屋のイメージから変わりました(未だ怪しい部屋ですが)。



318号室

水戸部先生と佐藤技官の部屋になります。就職の時期にはこの部屋の電話が鳴ると内定の電話ではないかとドキドキしました。また、暑い日にはこの部屋のドアが開放され、日本風ののれんが掛けられています。その合間から熱心に仕事に打ち込む姿を見ることができます。なお、部屋の概略図は、ひ・み・つ♡だそうです。

307号室(ゼミ室)

様々な雑誌が増え、そろそろ置くところが無くなってきました。

たぶんもう2年もしたら・・・。

僕は(M1 工藤)いなくなるから
まっいいか!

さあ、今年も秋田競馬が始まりました。今年も吉村厩舎の圧勝でしょうか。それでは、まずはみなさんと昨年を振り返ってみましょう。解説は、吉村厩舎に詳しい佐藤 保さん(以下たも)をお迎えしております。聞き手は、永井(以下ゆき)でお送りします。

ゆき: さて、たもさん!! 昨年の秋田競馬は荒れましたが、見所はどこだったでしょうか。
 たも: そうですねー。吉村厩舎で活躍が見られたのは2月の電電ダービーでしたかねえ。
 ゆき: 具体的に言うとどの馬でしょう。
 たも: やはり、クマガイクリークですね。なにせこの馬は世界レベルの馬ですから。今年の5月にも韓国でよい走りをしてましたからねえ。
 ゆき: あれは◎馬ですねえ。では逆に、この厩舎に問題点はなかったですか。
 たも: ああ、11月のボーリング吉村カップですね。あのときは各馬レース前に入れ込みましたからねえ。精神的な甘さが出ましたね。
 ゆき: 11月と言えば、秋には中国最高牝馬と言われる巖さんが来日しましたね。
 たも: ええ、来日から出産へと大忙しでした。
 ゆき: こうやってみると、昨年は色々なことがありましたね。そろそろVTRの準備もできたようです。それでは昨年の秋田競馬をダイジェストでご覧下さい!!



真剣に語り合う永井アナ(左)と、
解説の保(予想屋人生23年)〜ゼミ室にて

8月

☆夏休み(放牧)〜新馬たちの熱い夏!!〜
 放牧。各馬とも故郷の牧場に帰って一休み。しかし、新馬(4年生)は初戦に向けて早めに厩舎に戻り調教開始する馬も…。

☆4年生夏期中間発表(新馬戦)

4歳新馬デビュー戦である。来春のG I に向けスタートを切る。

☆大学院入試(秋田大学大学院記念 G III) ~若きエースの挑戦!!~

今年の本厩舎から二頭の4歳馬が出走。危ないのない走りでも好タイムを記録。この2頭は優秀な調教師陣に鍛えられ二年後の大レース電気学会記念の制覇を目指す。

9月

☆電気学会東北支部大会 (電気東北支部記念 G II in 仙台競馬場) ~古馬のG I 戦線開始!!~

本厩舎の有力馬(M2)が出走。強豪を相手に一歩も譲らぬ好レースを展開し、本厩舎の名をさらに広める。

☆中国から張さん来日!(中国産名馬獲得)

中国から雄馬がきた!! この馬は国内外のG I を制覇する力をもつだけでなく、本厩舎の他馬に与える影響は大きい。

10月

☆熊谷さん大学院博士課程入試 (博士賞 G II) ~古馬世界への一歩!!~

吉村厩舎から熊谷馬が出走。顕彰馬への第一歩。3年後には吉村厩舎初の日本人顕彰馬誕生か?すでに中国遠征の予定が!?

☆中国から巖さん来日!(中国産名馬獲得)

中国から牝馬がきた!! ややおとなしいが抜群の勝負根性あり。スピードだけでなく、華麗な走りでも他を魅了!

11月

☆ボーリング大会 (ボーリング吉村C G III)

昨年の1着馬、2着馬を有する本厩舎だったが、各馬ともレース前の入れ込みが激しく惜敗。吉村Cは坂田厩舎の手に…。今年は奪回を目指す!

12月

☆研究室紹介(厩舎紹介) 来年の新馬のための厩舎紹介。本厩舎の成績に3歳馬(3年生)を釘付け!優秀な4歳馬獲得に好感触? ☆そろそろ厩舎も慌ただしくなってきた。騎手達の鞭も入り、日々併せ一杯。 ☆冬期ゼミ (吉村S(4歳限定,卒論(G I)トライアル)) ~4歳馬最終調整!!~

未だ未勝利の4歳馬も奮起が望まれる。来春のG I に向け、各馬、手応えor課題を掴んだようだ。今後の成長への確かなステップとなった。

1月

☆修論予備審査
 (予備審査特別 GII (修論(GI)トライアル))
 ~古馬激戦!!~

古馬はここで踏ん張り修論発表(GI)に全馬出場決定。

☆巖さん出産(中国最高牝馬、仔馬出産)

気になる種牡馬は周さん。元気な牝馬誕生です。20年後には世界のターフを駆けめぐるでしょう。

2月

(電々ダービー)
 ☆修論・卒論発表(電気電子記念 GI)
 ~優勝大激戦!!~

いよいよG1、電気電子競馬場最高峰のレース。これまでの経験と実績を背負い各馬とも好成績を残す。

☆謝恩会・カラオケ大会(吉村記念 GIII)
 ~泣き声激戦!!~

日頃お世話になった関係者の人たちへ各馬感謝の意を示す。その後のレースを取るには走りだけではなく、歌唱力が求められる。

3月

☆修了・卒業式(引退式)

古馬・4歳馬たちが世界へ飛び出していく。きっと彼らはよい走りをしてくれるだろう。がんばれサラブレッドたち!

☆鈴木先生カナダへ(ジョッキー修行へ)

本厩舎のナンバーワンジョッキーの鈴木騎手がカナダへ遠征開始。海外で経験を積み、鞭さばきに磨きを掛ける。

☆電気学会全国大会

(電気学会全国記念 GI)

地方の名馬も全国の強豪を相手に大丈夫か?

そんな心配も本厩舎の馬には無用!遠征中の鈴木騎手に代わり水戸部騎手が6頭を上手に乗りこなし、各馬とも上位に食い込む活躍ぶりを見せた。

4月

☆4年生研究室配属(4歳馬入厩)

4歳馬が入厩。荒削りではあるが素質十分。調教次第では重賞制覇も。

☆吉村先生鉾山学部長再任祝い

(吉村オーナーKRA会長に!!)

吉村オーナーがKRA会長に再選!おめでとうございます。今後の競馬界の発展に向けがんばってください。(KRA: Kouzan Race Association)

5月・6月

☆就職活動(他厩舎との契約)

各馬その価値を買われ世界的な厩舎と契約。来期からは世界のターフを所狭しと駆けめぐる。期待大!

☆熊谷さん韓国へ(コリア賞 GI)

クマガイクリーク、コリア賞へ出走。世界のクマガイへの第一歩。得意?の英語で周囲を圧倒!。

7月

☆センサ研(センサ工学大賞典 GII)

秋田サンルール大潟競馬場で行われる。今年の優勝馬(論文賞)は!?



☆迷馬・クマガイクリーク!

2X年前、横手牧場で生まれる。生まれながら抜群の独自性をもつ。その独自性から「独自=ユニーク」という発想でクマガイクリークと名付けられる。

今回の年間行事は競馬風にアレンジしてみました。競馬を知っておられる方ならば、少しは分かってくれたのでは?好評であれば来年度の第8号でも...

平成8年度 修了生・卒業生就職先

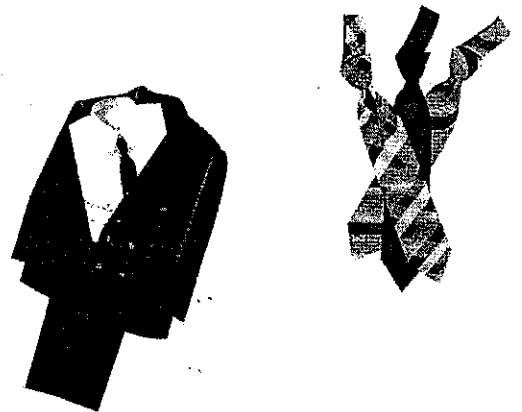
M2

木田 正彦 ナスビイ(株)
 熊谷 誠治 秋田大学大学院博士後期課程
 杉本 智子 富士通(株)
 薄田 一 セック(株)
 M. J. John G. <渡米>
 山口 秀憲 (株)ユー・ティー・エス

E4

伊藤 豊 第一化成(株)
 内海 光子 (株)メイテック
 木内 了 (株)アルファシステムズ
 工藤 健 秋田大学大学院博士前期課程
 佐藤安貴子 富士通デジタルテクノロジ(株)
 佐藤 啓 大和ハウス工業(株)

佐藤 保 秋田大学大学院博士前期課程
 鈴木 元康 <未定>
 珍田 寛 藤倉ゴム工業(株)
 橋戸 宏明 住友ベークライト(株)
 古田 好範 野里電気工業(株)
 松本 文佳 アイネックス



学生代表挨拶

平成8年度 学生代表 永井記幸

諸先輩、関係者の方々いかがお過ごしでしょうか、今年は季節はずれの台風など例年の猛暑とは異なる過ごしづらさで、研究室では“湿度との戦い”と言ったところでしょうか。

さて、今年は吉村先生が鉾山学部長に再選なされました。先生が学部長になられてからは、学内外より学部名変更など学校改革の動きが活発になったような気がします。しかし喜ぶべきことばかりではありません。吉村先生はますます多忙になられたようです。とくに今年は鈴木先生がかがに出張なさっておられるために研究室の庶務、学生の“調教”は水戸部先生と佐藤技官に“ぐっ”とのしかかっております。先生方のお体を心配せずにいられません。

ところで最近、世の中のハイテク化が進んでおります。これは研究室でも例外ではありません。個人所有のパソコンが増え、一人一台パソコンを持つような状況に近くなっております。今年からは、それらパソコン同士が徐々にLANでつながりはじめ、LANによる研究データのやりとり、電子メールでの呼び出しなど、私が配属された二年前とは大きく変わりました。諸先輩の方々は一度研究室の変わり様を見学しにいらして下さい。お待ちしております。

さて私が研究室にいた三年間は吉村先生が学部長に、鈴木先生が助教授になり、水戸部先生がいらっしゃったり、また先程述べましたように、研究室のコンピュータ化が一層進み、この作業に携る機会も頂きました。また昨年には研究室で交通事故という悲しい出来事が起きました。研究室としては過去まれにみる激動の時代だったのではないのでしょうか。この三年間、私が研究室副代表、代表を努めてきたことは、研究室にとってマウスでありましたが、私にとっては非常によい勉強でありました。私は責務を果たしてきたとは言えませんが、何とか研究室が活動できているのは、私の失敗を助けてくれた先輩や同輩、私の行いを叱って下さる先生方のおかげと思っています。まだまだ至らぬことばかりでご迷惑をおかけするばかりですが、残りの期間、全力で研究室のお役に立ちたい

と思っております。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしく申し上げます。

編集後記

☆ 第7号はいかがだったでしょうか？興味深い“鈴木先生のカナダ特集”があったため、過去にない程ボリューム・アップしてお送りしました。新聞製作中に、“香港返還”という世界的なニュースがありました。研究室には、中国からの留学生の方がたくさんおられるので、この方々に原稿依頼をして“特集・香港返還！”なるものを作ったら面白いかなあと考えましたが、仕事を増やして他の編集委員に恨まれるのが怖いのでやめておきました(笑)。日本人とは違った思いがあるでしょうから興味深いところです。お酒を飲む機会があったら、是非伺ってみたいものです。内容は次回の新聞で...というわけにはいきませんが。

☆ 最近の研究室での生活は充実しています。OB・OGがゴミ...いやいや貴重な生活用品を寄贈してってくれたおかげです。去年などは、扇風機の数足りなかったのですが1台寄贈してもらい、現在、私の後ろで一所懸命“首”を振っています。また、折り畳み式ベットが実験室にあり、これで徹夜も怖くない!? また、ラジカセ・コップ・本棚なども頂いて重宝しております。

☆ この編集後記を書いているのは7月初旬なので、まだまだ秋田は爽やかですが、暑い夏を迎えるとなると研究室の一員としてはうんざりです。皆様も暑さに負けず、ご活躍することを願っております。

☆ センサ研究会の日程が早まり、慌ただしく新聞を編集しましたが、無事完成できたのは、原稿の依頼をお願い致しました吉村先生、鈴木先生、最終チェックをして頂いた水戸部先生また各編集委員の皆様の協力のおかげであると感謝しております。

★吉村研新聞委員会★

顧問	水戸部一孝			
編集委員長	秋山 勉 (M2)			
副編集委員長	永井 記幸 (M2)	佐藤 保 (M1)		
編集委員	小林 保晴 (E4)	小嶋 幹人 (E4)		
	高瀬 文也 (E4)	服部 慎司 (E4)		
協力	工藤 健 (M1)			

御感想などお寄せいただければ幸いです。

〒010

秋田県秋田市手形学園町 1-1

秋田大学鉾山学部電気電子工学科
電気システム工学講座 吉村研究室
水戸部一孝